

令和4年度 第3回東京都サービス管理責任者等研修検討会 議事録【要旨】

- 日時 令和4年11月11日（金曜日）午後1時30分から午後3時30分まで
 （新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、WEB上での意見交換による開催）
- 出席者 妹尾委員長、秋谷副委員長、橋爪副委員長、宮田副委員長、会田委員、岡田委員、小出委員、徳武委員、樋口委員、横山委員、吉田委員、皆川委員（欠席 浅野委員、相良委員、渡辺委員）
 社会福祉法人草むらシャル夢 丹澤氏（国研修受講者）
- 事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 外川 他3名
 公益財団法人総合健康推進財団職員 3名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料確認（事前に送付済） 次第 資料1 令和4年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修プログラム 資料2 令和4年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）受講報告 ・研修委託先である、公益財団法人総合健康推進財団の方と、国研修を受講された皆様に参加している。 ・記録のために速記者の参加と録音をさせていただくこと、また、今回の検討会議事録（要旨）は、ホームページでの公開対象であることについてご了承いただきたい。ただし、資料については、出席委員の意見により公開・非公開を決めることができる。 ・本日の議事録のため、速記の方も参加をしている。速記を進めてもらうため、発言のときには、御自身の御名前を言ってから発言いただくことを願います。
-----	--

2 研修実施状況の報告

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・検討事項に入る前に、総合健康推進財団と事務局から、現在の研修実施状況の報告をお願いしたい。
総合健康推進財団	<p>【第1回基礎研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日程を無事に終了できた。 ・受講決定者1,027名に対し、修了者の方が880名となった。 ・内訳は、サービス管理責任者が495名、児童発達支援管理責任者が385名となった。なお、修了者には、11月7日に受講証明書また、修了証書を発送させていただいた。

【第2回基礎研修】

- ・受講決定者が840名となった。
- ・1日目から3日目の講義は、11月2日から10日まで動画配信で実施。そして4日目、5日目の演習をZoomで行うことになっている。Zoomによる演習は、来週11月15日から12月9日までの期間に全8コース実施する予定
- ・なお、11月8日(火曜日)にファシリテーター説明会を実施させていただいた。40名の方に御参加いただき、その内11名の方が演習指導者養成研修からの御参加の方であった。本年度は、演習指導者養成研修の方も一人で1グループを御担当いただくことになっているため、半日かけて研修のことを丁寧に説明させていただいた。
- ・基礎研修の最後の告知として、12月23日に全体の振り返り会を実施させていただく。本年度の基礎研修に御出講いただいた全ての教室進行、またファシリテーターの皆様にお声かけさせていただきたいと思う。

【更新研修】

- ・9月16日から30日まで募集を行った。定員1,700名に対し、申込みは1,593名となり、受講決定者が、1,586名となった。
- ・研修の進め方は、前半は動画配信となり、12月9日から12日まで実施。後半は、Zoomによる演習となり半日のプログラム。12月21日から1月16日まで全17コースを実施する予定。
- ・ファシリテーター説明会については、12月15日に実施予定となっている。

【第1回実践研修】

- ・全日程無事に終了した。
- ・受講決定者210名に対し、修了者183名となった。
- ・内訳は、サービス管理責任者が77名、児童発達支援管理責任者が106名となった。修了者へは、11月7日に修了証書を発送させていただいた。

【第2回実践研修】

- ・10月11日から25日まで募集を行った。定員1,000名に対して、825名の申込みをいただいた。
- ・1月6日から10日に動画配信、そして1月19日から2月22日までの期間でZoomを使った演習を行う予定。コースは全部で10コースを想定し準備を進めている。また、説明会は、来年1月9日に実施する予定
- ・最後に、専門コース別研修の報告をさせていただく。
- ・第1回は、受講決定した193名に対して、10月5日から7日に動画配信を行った。修了者には、12月上旬をめどに修了証書を発送させていただく予定
- ・第2回は、募集は10月7日から21日までの2週間でいった。定員150名に対して、123名の申込みがあった。こちらの方々については、受講決定した後に、動画配信1月17日から19日まで行う予定

	<p>【研修全体について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して、昨年度からオンラインの研修を進めさせていただいているが、徐々に定着してきているのを肌で感じている。 ・演習では、Zoomの機能を最大限に生かし、引き続き実りある研修にしていけたらと思っている。
事務局	<p>【演習指導者養成研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は定員30名のところ、関係者の皆様から11名の御推薦があり全員受講決定となっている。 ・研修1日目は、11月1日に実施しており、内容は、研修制度の概要、ファシリテーションの基礎、こちらは人づくり工房e s u c o（ゑすこ）代表の浦山絵里様から、普段の業務や研修のファシリテーションに役立つ知識や技術を御講義いただいた。そして、基礎研修の概要として、岡田委員、相良委員より、研修の全体像やポイント、そしてファシリテーターとしての心構え等について御講義をいただいた。 ・研修2日目は、11月8日に実施した第2回基礎研修のファシリテーター説明会に参加をしていただいた。この後は、来週から実施する基礎研修のファシリテーターとして従事することになる。 ・研修3日目は、12月23日に実施を予定している。こちらは、ファシリテーター体験の振り返りを行う。

3 検討事項

(1) 令和4年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）受講報告

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・議事の1、令和4年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）の受講の報告に入りたいと思う。研修の概要と受講状況について、事務局から報告をお願いする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・国研修は、9月13日から9月16日の計4日間にZoomによるオンライン研修にて実施をしている。 ・今年度は、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の専門コース別研修の部分として、意思決定支援と障害児支援、そして就労支援と三つのコースの受講、そして、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者部分は3日間の日程となっており、こちらは検討委員の皆様にご受講いただいていた。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・受講された方からの報告を一人5分程度でお願いしたい。
岡田委員	<p>【基礎研修コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国研修の基礎研修コースのほうを受講させていただいた。今回、標準カリキュラムを概観しつつ、都道府県での実践の共有や研修をさらにブラッシュアップするための内容で実施ということで、3日間の研修が行われた。 ・初日は、基礎研修、実践研修、更新研修の共通の講義で、最後に各都道県に分か

れて、自分の県の課題の整理、そして2日目は基礎研修の標準カリキュラムについての講義、そして3日目は、企画立案について1日通してのグループワークがあり、私は北海道、青森、宮城、茨城、栃木、埼玉の方と意見共有、意見交換をしてきた。最後にまた各都道県で集まって、振り返りと今後についてのまとめを行ったというのが主な内容であった。

- ・3日間の研修に参加させていただいて、今後、意識していきたいことや、印象的だったこととしては、特に講義の中でも、基礎研修、実践研修、更新研修のつながりをやはり強調されていた。
- ・特に、基礎研修の後半部分と実践研修の前半部分のつながりについて、着目してほしいということを講義でも話していた。意見交換でも、ほかの県では、研修のつながりを意識するために、同一事例で三つの研修を行っているところもあると聞いて、すごいと感じた。
- ・また、この研修が新体系に移ったことで、東京都でも感じている受講者レベルの問題について、受講者のレベルが様々になり、どのレベルに合わせるのかという課題はどの県にもあり、新規参入の事業所も増えてきている状況の中で、課題を多く感じている。講義の中でも、この課題を取り上げられていて、その中でも実務に精通している受講者には物足りないかもしれないが、やはり入職3年目の方が理解できるレベルと割り切って実施することが望ましいといった説明があった。受講者レベルの問題で言うと、研修修了後の効果測定を導入を検討している自治体もあった。
- ・開催方法は、オンラインと対面実施が半々な印象で、離島であるとか北海道などの広域な地域では、オンライン化でとてもよかったといった意見も聞くことができ、なるほどと思った。個人的には、やはり対面のよさというところを強く感じているが、やはり東京都は受講人数や開催回数などの課題が大きいと思うため、受講者にとってよりよい学びが得られる研修が実施できるように、今後も工夫を重ねる必要があると思った。
- ・ファシリテーターの養成については、同じく多くの自治体で課題として挙げていた。養成研修や事前の説明会、振り返り会を行っている自治体は少なく、東京都が行っていることを報告すると、その取組を聞かれることもあった。研修の規模や、何日も拘束してしまうといった時間の課題はあるが、今後も内容をブラッシュアップしながら、継続して取り組むことが必要だと思った。
- ・また、基礎研修の演習8で研修の最後に行っている「どんなサビ管・児発管になりたいか」という問いとワークについて。これは、他県の取組発表からも「どんなサビ管になりたいか」というワークがあるといった報告があり、意外に他県や講師からは好評で、現在取り入れている自治体は大体半々ぐらいの印象であった。せっかく、「どんなサビ管・児発管になりたいか」という問いとワークがあるので、これがやはり実践研修につながるとよいかと感じている。例えば実践研修受講前には振り返りができるなど、そのようなつながりがもてるとよいかと思

	<p>う。まずは、基礎研修が終わったときに演習ノートは捨てないでほしい。そして、実践研修の受講前には、一度目を通すことぐらいは言いやすいのではないかと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他には、受講者同士の横のつながり、そしてネットワークづくりが課題でもあり、講義の中でも大切にしてほしいポイントの一つとして挙げられていた。以前は東京都でも行っていたと思うが、オンライン化で名刺交換などもできなくなっているため、受講者同士のつながりについては今後、考えて行かなければいけないと思っている。 ・自分も、自立支援協議会の課題はずっとあると思うが、今の基礎研修の受講者の状況を考えると、まずは、サビ管はサビ管、児発管は児発管の横のつながりといったネットワークづくりを意識できるとよいと思う。そのために他県では、演習のグループ分けを地域ごとにしていたり、分野で分けていたりしているところもあり、そこはとても参考になった。 ・全体的に一番感じたことは、講義や意見交換を含めて、東京都のカリキュラムは結構よいのではないかと自分自身が感じる事ができたこと。これは本当にこれまでの検討委員の方、先輩方が築き上げてきたものなのだと感じる事ができ、自分も数年後にそう思ってもらえるよう、頑張っていかなければいけないと感じたところ。 ・今回は、渡辺委員と皆川委員と事務局の方と一緒に参加させていただいたが、1日目と3日目の終わりに東京都で集まる機会があり、なぜかブレイクアウトルームで集まると、とても安心し、そして勝手ながら仲間意識を持たせてもらい、ほっとするブレイクアウトルームを過ごす事ができた。この感覚は、オンラインでもできると感じたため、基礎研修の演習の中でも、受講者にもそのような気持ちを感じてもらえるような工夫や取組が持てるとよいと思った。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・次は、実践研修コースの渡辺委員からの報告になるが、本日御欠席ということになっている。皆様、事前に資料を御目通しいただいていると思うため、代読等はなしという形で本日は進めさせていただきたい。改めて、御熟読いただくよう、願います。
皆川委員	<p>【更新研修コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、国研修という大変貴重な研修に参加させていただき、本当にありがたく感じている。この場でやはり志を同じくする仲間と学び合えたということが各所で実感することができ、とても学びが多い研修となった。 ・受講報告については、事前に提出した報告書もとに御報告したいと思う。大きく分けて三つあり、国研修で伝達されたこと、そして意見交換、自分の場合は近隣の県で集まる形でグループワークを行ったが、その中で得られた情報、最後に伝達されたことを私が都研修と関連づけて考えたこと、この三つについて御報告をしたいと思う。 ・国研修で伝達されたことについては、岡田委員が先ほどご報告されたように、つ

ながりを意識することは、各所で言われた。基礎研修、実践研修、更新研修の流れを念頭に置きながら、常に全体を見返すような形で各研修は進めていってほしいといったことは何度も何度も言われたと思う。

- ・更新研修の受講者は、基礎研修の受講者へスーパービジョンをする立場となる。研修はそのように段階づけられているので、常にそこを意識しながら実施してほしいということであった。
- ・研修を企画する際のポイントについていくつか話があった。更新研修の大きな狙いは、知ることや、それを実践するというレベルではなく、支援の質の向上ということ断言していた。更新研修を受講する人たちの立場や条件を考えたときに、自分としてもそのように感じた。
- ・そのためのアプローチとして、本人理解、見立て、そして見直しをするということ。また、チームアプローチについてや、グループの中でのスーパーバイズをきちんと企画の中に盛り込むことを言われた。
- ・ただ、スーパーバイズを今回の研修の中で実践してみたが、やはり難しい。自分自身もまだまだ学び途中ということを見ると、ファシリテーターの力量の向上もやはり必要だと、グループワークを行った後に感じた。
- ・自立支援協議会とのつながりについては、岡田委員が報告されていたように、何度もメッセージを受けたと思う。
- ・続いて、更新研修も近隣の県でグループワークをした。話題に上がったことを幾つか御報告する。
- ・スーパービジョンに関して。更新研修では、「最新の福祉事情の伝達」と合わせて、それと同じくらい自己研鑽やスーパービジョンが大事ということを何度も繰り返し言われた。令和6年度から必須プログラムになるということ委員の皆様は既に聞いているかもしれないが、そこに向けてどのように準備を進めているかといった話が出た。スーパービジョンについての知識や情報は、いろいろなところから集められるが、それをもとにして演習をどのようにするかといったこと、また、収録により知識伝達をした、少しずつ導入を始めているといったところが大半だったかと思う。
- ・更新研修は、期間内の受講が必須になっているが、新型コロナウイルス感染症の感染や、Zoomの不具合などにより不参加になってしまうリスクも多分にはらんでいる中で、どのように対応しているかといった話があった。Zoomの扱いを皆で練習する、他県の受講を可能にしているところもあった。
- ・伝達されたことを都研修と関連づけて自分が思ったことを最後に御報告する。
- ・やはり東京都は受講人数が本当に多いと他県との比較で感じた。2倍、3倍じゃなく、県によっては10倍くらい違う。そういう意味では、東京都は量的な確保が実施するときの前提となっていることを改めて感じた。その上で、質の担保をどのようにしていくのかということが、東京都ならではの課題だと感じた。
- ・現在、更新研修の演習は動画配信とZoomという組立てで実施しているが、演習

	<p>の実施回数を確保していくことと、受講者の時間を考慮するとこの形が限界かとも思うが、一方で、ファシリテーターが増えるともう少し余裕が出てくるのかとも思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を俯瞰してみたときに、都の研修では量的にカバーしきれない部分を補う工夫として、専門コース別研修を含め、自己研鑽や学び合いの場は必要。自発的にまた自然発生的に学ぶことを期待するのもあるが、こちらから仕掛けていく工夫も必要だと思った。
事務局	<p>【自治体職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体職員ということで、心身障害者福祉センターの樋口が受講をさせていただいた。今回は、自治体職員もコース選択ができたため、基礎研修コースに岡田委員と一緒に受講をしている。本日は、樋口が特に御報告したいといていたこととお話しさせていただく。 ・まず、国研修で伝達されたこととしては、本人ニーズを福祉サービスに当てはめてしまい、本人の可能性をなくしてしまっている。知らないことは選択肢には当たらない、本人の可能性を限定しないようにすることが大事。 ・そして、地域を変えるには、他分野のことを知ることが大事。また、相談支援専門員とのつながりが大事ということで、相談支援専門員との連携は繰り返し言われていた。 ・サビ管・児発管の負担感を解消することが、利用者の支援につながるのではないかと、研修のスタッフが元気であって、楽しんでいないと駄目なのではないかとあった。 ・そして、意見交換で得た情報だが、幾つか意見が出た中で、一番印象に残ったのは、2年間の業務計画、OJTの内容を提出してもらっている自治体があり、それはとてもよいと感じた。 ・最後に、都研修と関連づけて考えたことは、相談とサビ管・児発管の各検討会の合同会議があると、多職種、地域連携、研修の充実につながるのではないかと感じた。
橋爪副委員長	<p>【意思決定支援コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援については基礎研修でも少し触れてはいるが、とても関心のあるテーマなので、受講させていただいてよかったなと思っている。 ・一日オンラインの形で実施し、本番を想定した形で研修が進んでいった。80名くらいの受講者がいた中で、進行は一人で行う形で、進行がスライドを見せて受講者に聞く、動画を見た後に意見を聞くといった形で話は進んでいった。 ・受講者80名くらいを3名ずつのグループに分け、20から30チーム近くあり、自分は大阪と熊本のグループになった。ぽんぽんとグループをブレイクアウトルームに移動し、「入ってきてください」「5分で戻ってきてください」といった感じのことを何度も繰り返す形。そのため、動画もいくつも見たと思う。 ・一つひとつは、そんなに難しいことではないが、基本を確かめるような形のもの

	<p>が多く、例えば、「意思決定支援をする主体は誰でしょう」といった大きな文言について、チームで話し合い、グループでの意見を聞くというのをどんどん繰り返して行く。簡単なものについては、模範解答があったが、討議になるようなものに関しては、「そうですか」という感じでどんどん流して行く。体験型の研修だったというイメージがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義部分では、意思決定をする主体は本人であることや、意思決定支援というもの、意思決定自体を阻む要素はこれだけのものがあるといったことが羅列されていた。また、意思決定における原則として、最善の利益を取ること、ガイドラインなどにも出ているが、そういったところの確認をするというのが大きな流れであった。 ・主に、自分が参加した、半日くらいの体験型で進む中では、進行の方もおっしゃっていたが、今回の研修を受けた方が進行をする、資料も自由に使ってよい、動画も許可さえとれば使ってもよい、ぜひ実施してほしい話であった。研修を実施しているところは15自治体あり、今年度中に26自治体が実施。それをもっと意図を広げて行ってほしいということで、自分も資料と動画があるのであれば、実施することはそんなに難しくなく、そんなに難解な話ではないので、可能かなとは思った。 ・ただ、根幹の意思決定支援をどう考えるのか深いところについてはあまりアプローチがなかった。東京都で実施するのであれば、その辺を進めた上で国研修にのっとって行えれば、比較的やりやすい研修かなと思った。テーマ的にはどこかに組み込んでしっかり学ぶ必要がある内容かと思った。また機会があったら受講したい。
横山委員	<p>【障害児支援コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義自体は、東京都でおなじみの講師の先生方から御講義をいただいたということもあり、資料は膨大だったが、安心して受講してきた。普段は、基礎研修の検討チームに関わらせていただいているため、児童支援の部分にぐっと自分が振り返り引き戻されたような気分で聞いてきたというのが実際のところであった。貴重な体験であり、機会を頂戴できたことに本当に感謝している。 ・国研修で伝達されたこととしては、児童期の支援の基本姿勢とポイント、そして支援のマネジメントのプロセスを学ぶといった研修であり、新設のプログラムと説明があった。このプログラムは実践に関わっている、実践に直結する研修であるため、実践者が伝えていくということがスッと落ちていくのではないかと説明があったのと同時に、現在未実施の都道府県については、来年度はぜひ実施してほしいといった報告があった。 ・そして、児童期における基本姿勢の部分では、障害児支援への基本の理念と役割や権利擁護、インクルージョンなどの機能も含む児発管としての基本姿勢を身に着けるといったことをお伝えいただいた。また、法令の遵守の重要性というところでは、障害児施策の動向を捉えた上で、権利擁護や児発管の役割、職務、果た

- すべき責任、ガイドラインに基づいた質の担保についての御説明もあった。
- ・発達支援（本人支援）の部分だが、こちらは家族支援と並行して考える、児童期特有かと思うが、家族支援と並行して考えることの重要性も伝えられていた。それらは必要不可欠だということ。
 - ・多職種と他機関との連携の重要性について伝達があり、異なる視点も大事ということと自分の職へのプライドも持ちつつ、多職種へのリスペクトという言葉がキーワードとなっていたが、これらを協働してやっていくことが、子どもの支援につながるということを考えていったことも伝えられていた。
 - ・あとは、児童福祉法に基づくところで、ここはかなり自分の中でも印象的であった。普段も気にはしているところではあるが、子どもは子どもとして育てられることの重要性であるとか、育つ子どもの特性、また特徴とは、発達と疾患の理解や発達の視点がキーワードとして何度も挙げられていたが、発達の視点の重要性の理解というところが強く先生方からお伝えいただいた部分であった。
 - ・演習においては、相談支援専門員と児発管が合同の研修になるということで、それぞれの見立てや役割を理解して進めていくことが重要であるといった説明だった。
 - ・家族支援、地域支援、発達支援という、これもまた児童期特有の計画の立て方かと思うが、ここが揃うことで初めて発達支援なのだということも大きく強調されていた。家族、きょうだい児も含め、寄り添うことの重要性や、子どもが環境によって大きく変化する時期であるということ、また、移行期への支援、重要なステップとなるということが国研修では、まず伝えられていたことの大枠かと思う。
 - ・意見交換で得た情報としては、実際グループの中には東京都と滋賀県と何県かいた中で、現在、専門コース別研修を実施しているのは、実は東京都と山梨の2県だけであった。実施していない県については、検討はしているけれども進んでいない、なかなか取り組めていないということが挙げられていた。新型コロナウイルス感染症の影響があったことも理由の一つには上がっていた。
 - ・共有された意見の中では、事例の選定についての話があり、児発管というくくりの中でも、児童期の年齢は未就学なのか放課後等デイサービスの事例がいいのか、ここも皆が迷っているところであった。東京都は放課後等デイサービスに通われている方の事例を使っているといった情報の提供をしている。
 - ・他には、研修の検討委員の構成についてや、研修を行う上でのファシリテーターの確保がとても難しいといった意見交換がなされた。
 - ・伝達をされたことを東京都と関連づけて考えたことについては、これは個人的な考え方も大分含んではいるが、今年度の都研修のプログラムは割と講義内容においては、国研修で標準カリキュラムとされた内容がおおむね取り組めていたかと思う。
 - ・実践報告についても、今年度ディスカッション形式で触れていた内容にも大分近

	<p>かったので、大枠としてはよいかと思った。相談支援専門員との関係というところは、今は不十分な状況なのかと思っている。講義の中で、できればこのままのプログラムを実践してほしいといった講師からの強いアプローチもあったが、新カリキュラムで行うことは、実際には割と可能かと思っている。分野別であったときの児童分野のカリキュラムに、相談支援専門員との連携のところを演習で組み込むといったような、簡単に言うとそのようなイメージで成り立つというところはあったが、何分、二日間に及ぶ内容のため、研修の日程がまた増えてしまうところでの調整が必要となる。ファシリテーターの確保もあり、なかなか難しい。今後の検討課題かと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修を修了した方が障害児支援コースを受講することになるが、習熟度からみて、このカリキュラムがどこまで落ちるのか。研修を二段階方式にしてみるなど、都独自の研修を考えたりすることも必要。せっかく作られた児童発達支援の専門コース別の意義がなせるように今後、検討していくとよいかと思った。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・次の就労支援コースについては、社会福祉法人草むらシャル夢の丹澤和美様に御報告をお願いします。
丹澤和美氏	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、令和4年度に新設された専門コース別研修の就労支援コースに初めて参加することになり、しっかり聞けるか、皆様にお伝えできるかというプレッシャーもあったが、報告をさせていただく。事前に皆様には報告書がお渡しされているので、一つ一つの細かい説明は省かせていただき、ピックアップしてお伝えしたいと思う。 ・従前は分野別でサビ管研修を実施していたので、そちらの就労分野の内容を補完する形となっているが、実際は、より深い就労分野の内容となっており、より専門的になっていると感じている。 ・時間数は、2日間で合計14時間と長く、必須の研修ではないというところで、どの程度実施できるかを感じている。 ・カリキュラムに関しては、相談支援専門員とサビ管に共通の内容であり、共通の基礎的知識等を持つことや相互理解に基づく連携促進が重要であるということ言われていた。そのため、企画立案の段階から相談支援専門員とサビ管の双方の立場のスタッフに関わり、受講生も双方を対象とした研修として実施するというのが望ましいということであった。 ・令和4年度から実施する自治体は、全国で4県。意思決定支援コースのほうは26県が今年度実施すると話があったが、それに対して4県というのは、やはり2日間14時間で、必須の研修ではない事がハードルの高さを物語っているかと思った。 ・まだ仮称かもしれないが就労選択支援については、研修の中で頻繁に出てきた。こちらは、障害者総合支援法の改正の中にあり、就労系障害福祉サービスとして新たに創設される予定である。就労アセスメントの手法を使用して、本人の就労能力や適性などを整理して、障害者本人の希望に応じて、能力などに合致した一

	<p>般就労と福祉サービスの事業所の選択を可能にするという制度だが、「今後、注目してほしい」「今後、導入されていくと思う」と、別々の講師の方から話があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブレイクアウトルームで近隣県の方と各グループを作った。そこで意見交換をしたのは、専門コース別研修開催に関しての課題であった。近隣県の方たちも、講師の調達とファシリテーターの調達が大変そうだということと、2日間分の内容を今回の国研修では1日で行ったが、講師の方々は、皆様とても早口で話され、かなりのボリュームがあった。これを2日間で出来るのかということを書いていた方も多かった。 ・実際、ファシリテーターや講師の方は就労系の現場で活躍している人ではないと難しいのではないかという意見と、起業と経営の基礎理解、労働関係の法規等の部分が難しいといった意見が共通で出ていた。 ・自分は就労移行事業所勤務だが、実際参加させていただいて、専門的で内容が濃くかなりレベルが高い研修のため、受講できると明日からの事業所運営にとっても役に立つと思った。ただ2日間14時間であり、また、必須の研修ではないことから、どのくらいの参加者が見込めるかが心配。 ・演習の中でサービス等利用計画を作成する、個別支援計画を作成するというワークがあるが、基礎研修修了者から参加できる研修になるため、個別支援計画の理解ができたばかりの方がサービス等利用計画の作成ができるかということと、ようやく個別支援計画が作成できたのに、サービス等利用計画を作成すると作り方の中身のことが混同してしまうのではないかということが心配となった。 ・ここでもやはりサビ管と自立支援協議会との関係性を焦点としていたので、どうサビ管が関わって地域課題を解決させていくかということを講師の方が話していた。 ・今回、国研修の参加者に、自立支援協議会について、その中には就労支援部会があるかどうかの質問が事前にあったのだが、実際、国研修参加者でも、自立支援協議会の委員は少なく、就労支援部会のないところもまだ、多々あるという状況であった。 ・皆様の報告の中にもあり、就労支援でもそうだが、連携が大切で最近では希薄になっていると感じると講師が話していた。そして、人材育成やネットワーク作りにつながる研修をしてほしいということでもあった。今後の研修では、ブレイクアウトルームに分れるときに、同じ地域でまとめるなどをし、今後のネットワーク作りや、連携につながるようにしてはどうかと感じた。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・報告いただいた内容について、質疑応答があればお願いしたい。 ・特にないため、報告については以上とする。

(2) 各研修プログラムの作成について

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここからは、ブレイクアウトセッションに移り、各グループで検討いただく。検討内容は、基礎研修チームは、来年度の実施に向けてのプログラム内容を検討。実践研修チームは、第2回の研修実施に向けて研修教材の作成状況及び説明会の確認。更新研修チームは、説明会の確認とスーパービジョンの部分の作成について検討をお願いします。 ・検討時間は35分間とし、15時5分から検討結果の報告に移る。その際には、各副委員長の方から、検討の結果を大体5分ずつ程度でお願いします。
	<ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに検討（記録省略）

各検討チームの報告

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修のチームの副委員長から検討の結果の報告をおおむね5分ずつ、基礎研修から順番にお願いいたします。
橋爪副委員長	<p>【基礎研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1から8までを確認した時間になった。細かいところは抜きにしても、もう少しシンプルにしてもよいと思われる箇所が幾つかある。例えば、用語を絞ったり、専門用語ではない言葉で表現したり、分かりやすさを目指すことがあってもよい。また、100文字要約とリアルニーズのところも、ワークとしてシンプルにしたほうが受講者の理解を得やすいかなど、そういった話が少々あった。 ・また、先日、児童関係の方から、扱う事例が成人の利用者のため、児童の部分が担保されていないという御意見というのをいただく機会があった。そのことについて、基本的には分野に限らず土台となる基礎固めの研修なので、コンセプトをしっかりと押していくことがよいのではないかという話になった。ただ一方で、その土台となるための研修にするために、いろんな分野の基礎にきちんと入り得ているかという検証も併せて必要。いろんな分野が集まっている検討委員なので、意見を合わせていき、これから作り上げていこうという話になった。 ・これまで基礎研修は、資料を作るのに割と必死で、必要な箇所の修正を繰り返してきた何年かだが、今、過去を振り返ってみると、これまでの委員が作ってきたものをまた新しい委員で検討している状況になる。これからは、修正というよりももう少しよいものに変えていくというような、改良のような段階に来ているのかと、話合いを聞いていて思った。そういった意味でもう1枚、2枚上の基礎研修になるとよいと思っている。 ・見直しについては、第2回の研修が始まるが、発表の時間とワークの時間のバランス、特に意見共有があまりできないオンラインだからこそ、共有の時間はやはり大事なのではないかという話もあった。ファシリテーターに任せる時間の適切な時間もやってみないと分からないところがあるため、第2回が終わったところでその辺をしっかりと取り入れ、冬の間を検討し、来年度に使いたいと思った。

宮田副委員長	<p>【実践研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践研修は去年からスタートし、今年度もオンラインで実施しているが、オンラインで何回か実施してみて、少しずつ修正するところが出てきていると感じている。 ・去年から今年への修正は、ばたばたしていて大きな修正ができなかったため、来年度に向けてもう少しブラッシュアップできるように、大きな変更も踏まえながら第2回を実施していきたいと思っている。委員の皆様にもファシリテーターや教室進行としてお願いすることもあるかもしれない。その際には何か気づいたことがあればお知らせいただきたい。 ・実践研修は、扱っている事例の名称を「一朗さん」と名前読みにしていたが、基礎研修でも「まりかさん」から「竹村さん」に名字読みに統一されたということで、実践研修でも名字読みに統一するよう修正している。 ・他には細かな修正になるが、昨年度行ってみて、今年度はやはりファシリテーターの方にブレイクアウトルームでのグループワークを大分お任せできるということ、基礎研修や実践研修の教室進行、ファシリテーターの方からもお聞きしていた。やはりオンラインになった分、皆で小さなグループで直接、話ができただろうが内容も深まると感じたため、ブレイクアウトルームの時間を昨年度に比べて長く取るようにした。 ・来年度に向けては、先ほどの国研の報告でもあったが、基礎研修と実践研修について同じ事例を使い、内容を深めていくといったことも御意見としてあったため、来年度に向けて考えていきたいと思っている。 ・まだコロナ禍で状況が分からないが、オンラインに慣れてきていて、受講者もミュートの操作が早くなっており、進行がとてもスムーズになったと思うが、今後、集合研修に戻る可能性もある。これまではオンライン用に作り上げてきているところがあるため、集合研修になるとしたら修正点としてどのようなものがあるか、その辺りについて第2回を実施しながら皆で考えていきたい。 ・昨年度、今年度と実施してみて、昨年度は令和元年度の基礎研修修了者を対象として募集をしたが、申し込みが少なかった。先ほど総合健康推進財団からも話を聞いたが、昨年度は受講を忘れていた方もいたため、今年度第1回は令和元年度の基礎研修の修了者を対象に研修を実施したということであった。第2回は令和2年度の基礎研修修了者が対象になる。恐らく基礎研修は1,600名など、かなりの人数が1年間で研修を修了されていると思うが、第2回の定員は1,000名のため、やはり50%ぐらいしか実践研修を受講しないのではないかと聞いたことが、話題として出ていた。基礎研修では、たくさんのファシリテーターの方のお力をいただいて実施しているが、なかなか実践研修につながらなくて、もどかしいところがある。
秋谷副委員長	<p>【更新研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月末に動画配信部分の撮影を終えて、12月の上旬から動画の配信、Zoom

	<p>の演習部分が21日から行われる。そちらに向けて12月15日にファシリテーター説明会があり、その内容について確認をした。昨年度の説明会は1年ぐらい前のことになるので、記憶が定かではないが、思い出しながら大体2時間程度で説明する予定を組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなところでは、更新研修は、検討委員の方が大分ファシリテーターとして参加していただいているのでお分かりかと思うが、昨年度は2つグループを一人のファシリテーターが担当するワークがあったが、今回、1つのグループを一人のファシリテーターが担当することになり、今、総合健康推進財団に調整していただいている状況 ・12月15日の説明会では、実際にZoomで行う演習部分について、当日の流れも含めて説明をさせていただきたいと考えている。 ・更新研修では、令和6年からスーパービジョンが新しいカリキュラムとして入ってくるといったところで、実際にスーパービジョンが始まると研修自体が7時間のため1日分増えるような形になる。今、更新研修では、徳武委員にスーパービジョン部分の大枠のイメージは作っていただいているが、来年1年間で作り込みをしていかなければいけない。今、実際に更新研修で行っているカリキュラムのところにも、人材育成に重なる部分があるため、今のカリキュラムの見直しも含め、これから検討していくといった話をしている。今日が3回目の検討会だが、次回、3月に4回目の検討会があるので、そこで来年度のスーパービジョン部分の作成スケジュールを決めていきたい。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・報告いただいた内容について質問や意見があればお願いしたい。
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTについて、全体での検討もあまり回数がないので、皆様から御意見をお聞きしたい。先ほど国研修の基礎研修コースの報告からも、基礎研修後の2年間のOJTのプログラムを出してもらっているといった話があったが、実践研修のほうでも、OJTを受けてきているのか疑問に思える受講者もいて、今までもOJTについては話題に出ていた。やはりOJTとはどういうことをするのかといったことがやっぱりはっきりと示されていないような気がする。何か基礎研修のほうでOJTについて触れたりしているのか、今後、実践研修でその部分を事前課題として出してもらうなど、研修全体の流れとしてその辺りを検討できるとよいかと思ったが、いかがか。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・演習8について、いろいろなことをまとめとして話していた時間だったが、今年度第1回から少内容を変更し、OJTを意識した形に切り替わっている。ただ、宮田委員がおっしゃっていたような、この2年間具体的に何をやるのかというより、何が必要と感じましたかという呼びかけの下で、受講者から発言してもらった形。実践研修から逆にこの2年間はこうあるべきというところがあれば、演習8はまだ出来たての演習なので、そこも加味したものにちょっと作り変えていける余地がある気がするし、おっしゃるように、具体的なほうが学びも大

	<p>きいと思うので、何か具体的に意見交換するタイミングが分かるとういと思う。</p>
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修と実践研修のはざまにある感じになっており、少し宙ぶらりんな形のため、基礎研修と実践研修で終わった後の確認として行ったり、事前に説明としてこのようなことができるとうい話をするなど、受講者だけではなく、事業所に対する説明も必要になってくると思う。その辺りをどのように扱っていくかなど、実践研修はプログラムとしてはめいっばいな感じもあるため、事前課題などになるかもしれないが、情報共有させていただきながら、来年度に向けて検討していければと思っている。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修は回数も多いためたくさんの方に教室進行やファシリテーターを担っていただいている。そのときに毎回ご意見をいただくが、できれば実践研修を担当している例えば宮田委員から、おっしゃっていただくと、実践研修を通じての意見なのかが分かりやすくてありがたい。宮田委員に限らずだが、どの立場の方がどう思われて演習8はそう思ったのかとかいうところまでご意見をいただけると、効率が上がってありがたいと思うので、ぜひお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTに関して、基礎研修、実践研修だけのところではなく、更新研修の受講対象者は、役割として人材育成の部分が大きいので、次のサビ管・児発管を育てるという意味では、更新研修も含めて考えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど国の報告を聞き、とても参考になった。例えば基礎研修と実践研修と更新研修を貫くような、望ましい支援員像や、基礎研修ではどのようなプランをつくってみたいと思うか、あるいは更新研修の人にはどんな後輩に育ってもらいたいかというような、つながりを少し意識すること。OJTとして各職域で学んできてもらう宿題などを、段階を追って出してみるといった形でつながりをつくっていくというのは、国研修の報告を聞いていて、なるほどと思った。どんな人になりたいかなどが、つながるといふことの軸になっていくとういかと思った。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・国研修では、ファシリテーターを含めた人材育成の部分と、コロナ禍でのオンライン受講でどのような工夫をしているのかとういことがあったが、ネットワーク作りや、お互いの共有感など、対面よりは肌感覚の部分がどうしても欠けざるを得ないところではある。何か伝わり合った実感のようなものや、研修の中で腑に落ちたような実感がどのようにすると持っていたかとういところ、より工夫が求められるとういことは共通してあったかと思う。 ・先ほども最後の質疑にあったが、専門コース別研修であったり、それから基礎研修、実践研修、更新研修と、これからどう成長していくかとういプロセスの中で何を身につけるかの部分が、OJTであったり、今後始まっていくスーパービジョンのところと連動するような形で研修の組立てをさらに充実していただけるように、引き続き協力をお願いしたいと思う。

4 閉会

事務局	<ul style="list-style-type: none">・第4回までの予定については、この後、本日の議事要旨と本日の国研修の報告についても併せて確認をしていただき、皆様の確認が取れたら、ホームページに公開をさせていただきたいと思う。メーリングリストに挙げさせていただくため、内容の確認に御協力をお願いします。・次回の検討会は3月上旬に開催したいと思っている。決まり次第、御案内させていただきます。・これで、閉会とする。
-----	---